

観騎亭と馬場

岡山後楽園は藩主が景色を楽しむ庭園というだけではなく、武芸の稽古をするための場所でもありました。観騎亭は園内北側の有名な約 180 メートルの長さの馬場の中央に面して建っています。池田継政（1702 年～1776 年）や池田治政（1750 年～1818 年）などの藩主がここで馬術や弓術の練習をしているのが目に浮かぶようです。

馬術や弓術などの武芸の観客のために幾つかの建物が建築されました。観騎亭では、藩主が家臣の騎乗を観賞し、家臣は巧みな馬術を披露した見返りとして庭園を鑑賞することが許されました。ここは家臣が藩主との絆を育むことのできる場所でした。

園内には、第二次世界大戦の空襲にあいながらもほぼ無傷だった建物がわずかにあり、この休憩所はそのひとつです。春には馬場に見事な桜のトンネルができます。

観騎亭など、園内の建物は月ごとに一般公開されており、予約して借りることができます。